

北海道観光の現況

2018



北海道経済部観光局

平成30年10月



キュンちゃん (北海道観光PRキャラクター キュンちゃん)

目次

1	北海道観光の現状	
	(1) 観光入込客数の推移	・・・1
	(2) 観光客の動態	・・・5
	(3) 観光産業の状況	・・・11
2	北海道の観光振興施策	
	平成30年度観光局の施策体系	・・・16

【参考資料】

- ・観光入込客数(延べ人数)の推移
- ・その他の観光統計指標(前年同月比)
- ・主な観光資源(自然公園、ラムサール条約登録湿地、世界遺産、北海道遺産等)
- ・観光圏の認定状況
- ・広域観光周遊ルートの認定状況
- ・JNTO認定外国人観光案内所(ビジット・ジャパン案内所)
- ・航空路線網図
- ・航空路線別輸送実績
- ・平成30年度 地域政策推進事業・観光関連分
- ・北海道観光のくにづくり条例
- ・北海道観光のくにづくり行動計画(概要)

1 北海道観光の現状

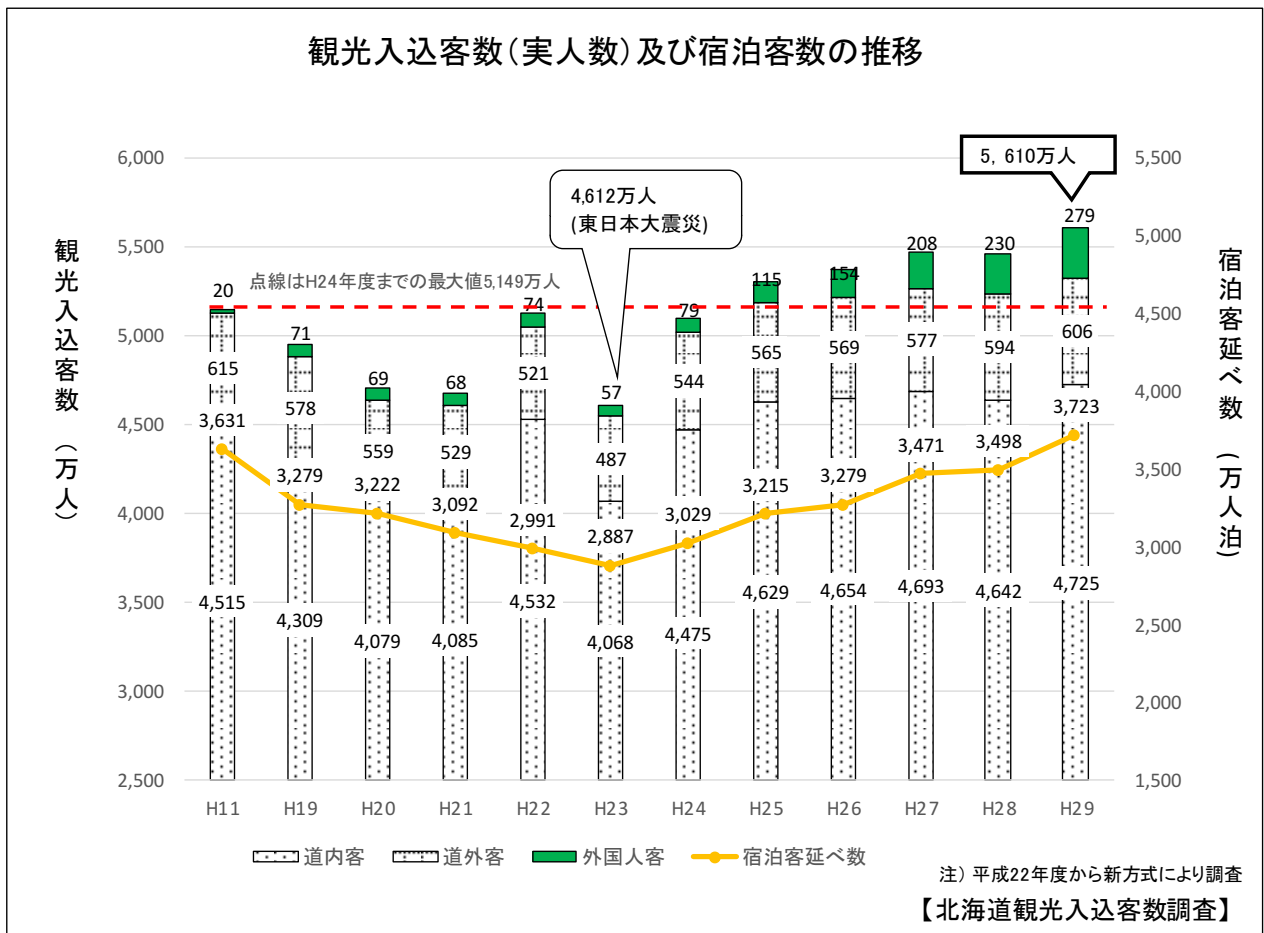
(1) 観光入込客数の推移

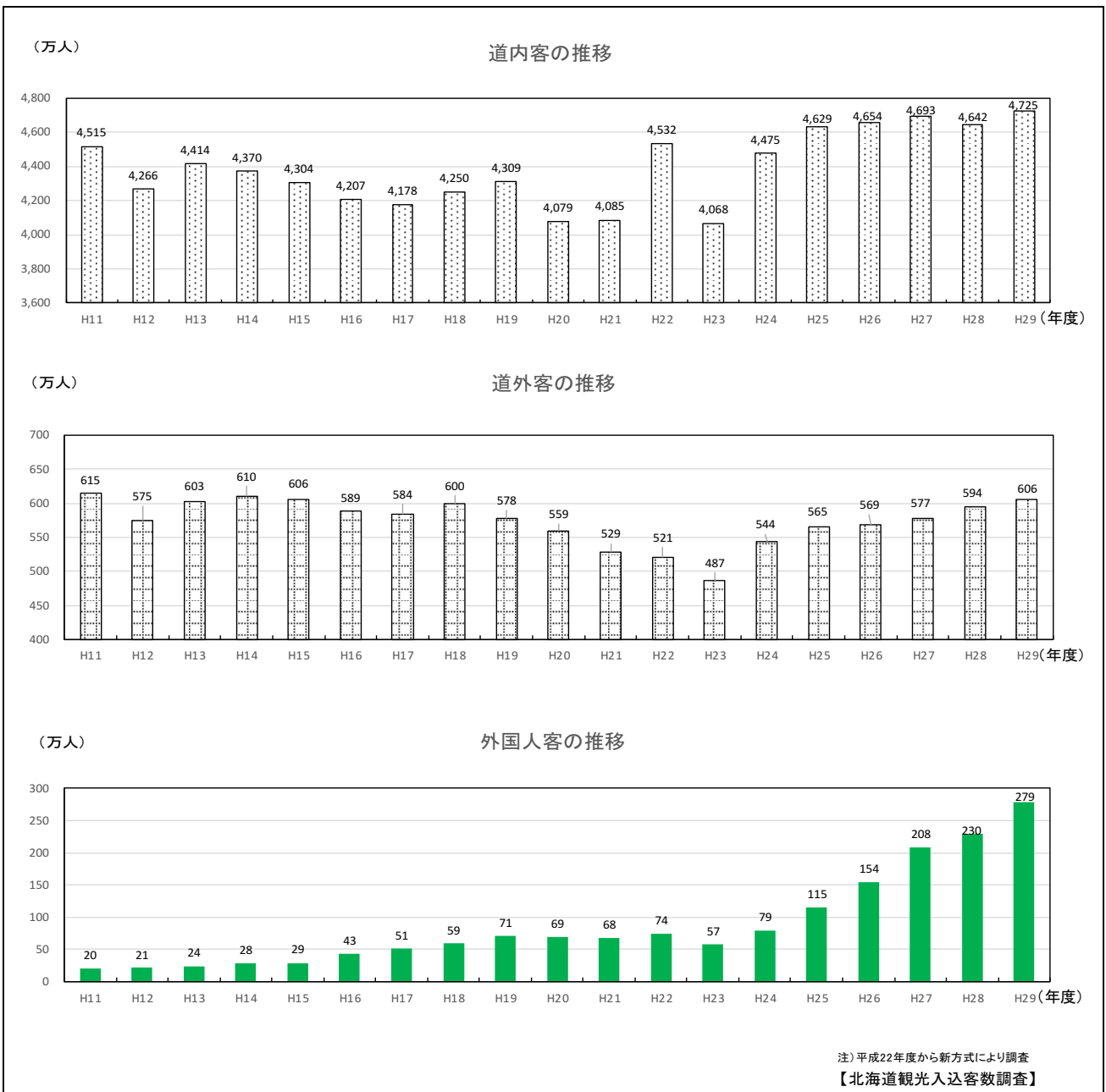
■ 観光入込客数、外国人来道者数ともに増加基調

北海道の観光入込客数(実人数)は、平成23年度に東日本大震災の影響などにより大幅に減少したが、平成24年度以降は堅調に推移し、平成29年度は過去最多の5610万人となった。

道外からの入込客数についても、平成24年度以降着実に増加しており、ピークとなった平成11年度(615万人)に迫る606万人となった。(過去3番目)

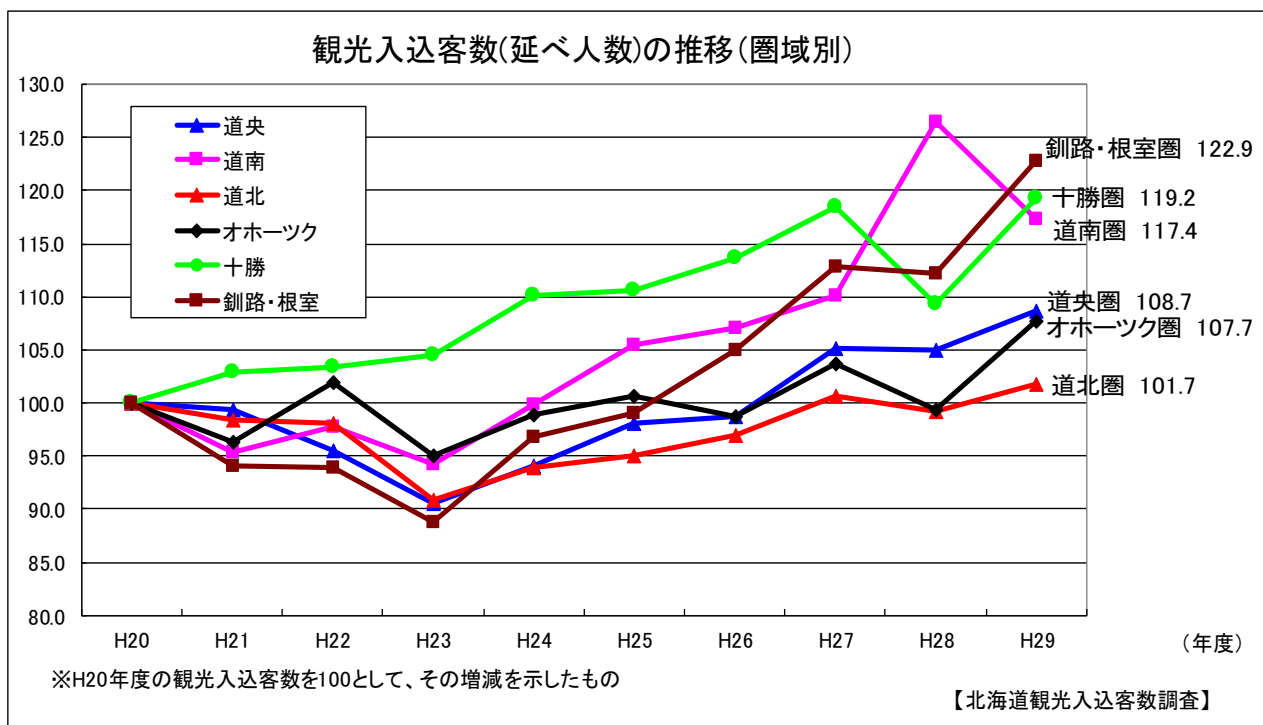
訪日外国人来道者数は、国際定期便の新規就航や増便、査証要件の緩和、免税制度の拡充、円安基調の継続などにより近年急増しており、平成29年度は過去最多の279万人(前年度比21.3%増)となっており、日本全体の訪日外国人旅行者2,977万人の9.4%を占めている。





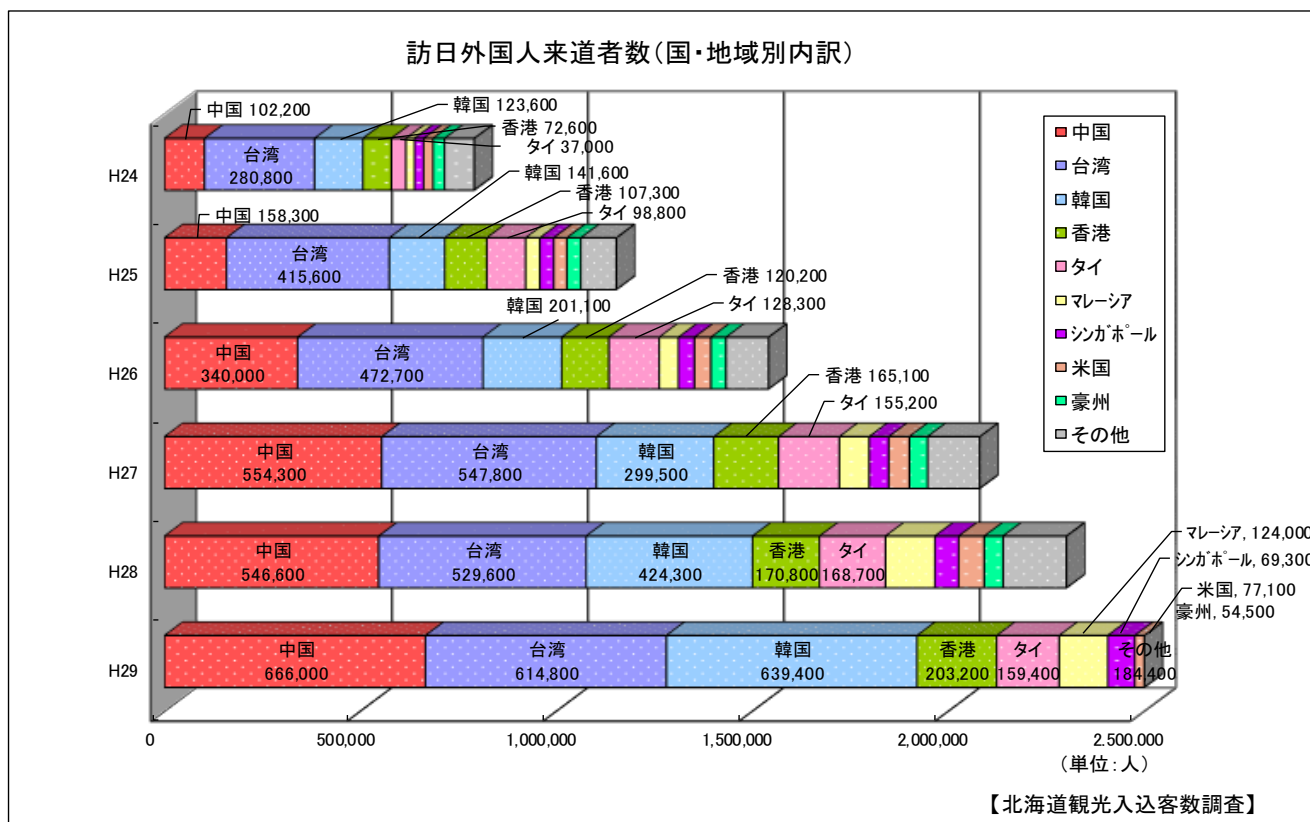
■ 圏域別では6圏域とも増加

この10年間の圏域別の推移をみると、6圏域とも増加傾向にあり、平成20年度の入込客数を100とすると、道東道の延伸による交通アクセス向上の効果などから釧路・根室圏(122.9)、十勝圏(119.2)が大幅に増加し、北海道新幹線の開業効果により増加した道南圏(117.4)が続いている。平成29年度は、前年度に北海道新幹線の開業効果により大きく伸びた道南圏が減少したが、他の5圏域は前年度に受けた台風等の影響から回復し増加した。



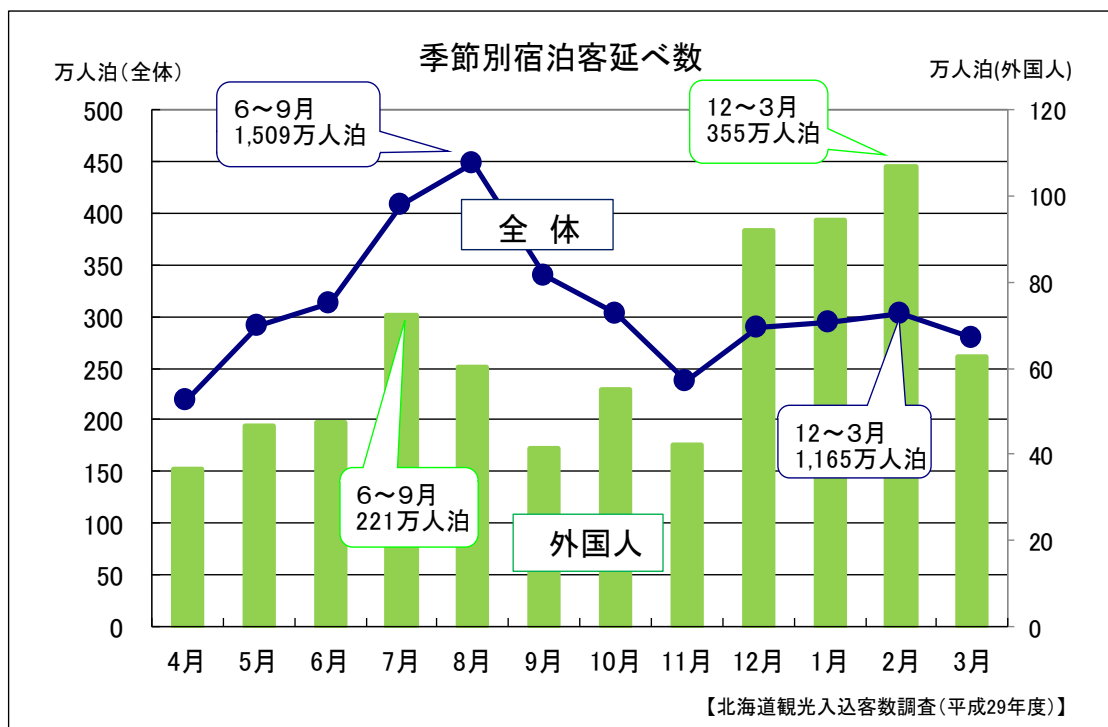
■ 著しい伸びのアジア地域

平成 29 年度に本道を訪れた外国人観光客は、前年度に比べて 21.3%増加し、過去最多の 279 万人となっており、国・地域別にみると、アジア圏の北海道人気が続いたことなどから韓国が前年度比 50.7%増と大きく伸びたほか、大きな割合を占める中国(21.8%増)、台湾(16.1%増)も増加した。



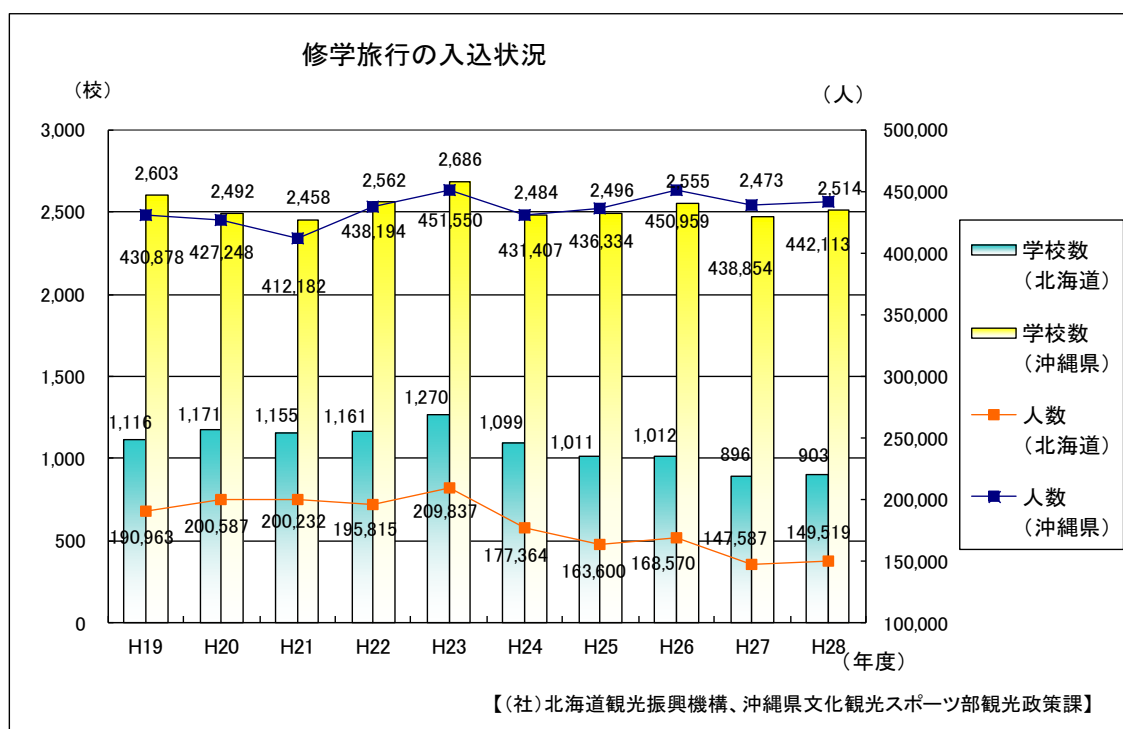
■ 季節による観光客の動向

平成 29 年度の観光客の延べ泊数（3,723 万人泊）を季節別にみると、夏季（6～9 月）が約 4 割、冬季（12～3 月）は約 3 割となっている。一方、外国人は、夏と冬の 2 つのピークがある。



■ 修学旅行の受入

北海道への修学旅行は、平成 23 年度に震災の影響による旅行先の道内への振替などから増加したが、平成 24 年度以降は減少傾向にある。旅行業者等によると、北海道への修学旅行は平成 11～12 年頃までは全国トップクラスであったものの、平成 15 年度以降は沖縄県へのシフトが進み、現在では沖縄県の半数以下に減少している。



高等学校における修学旅行宿泊地の推移

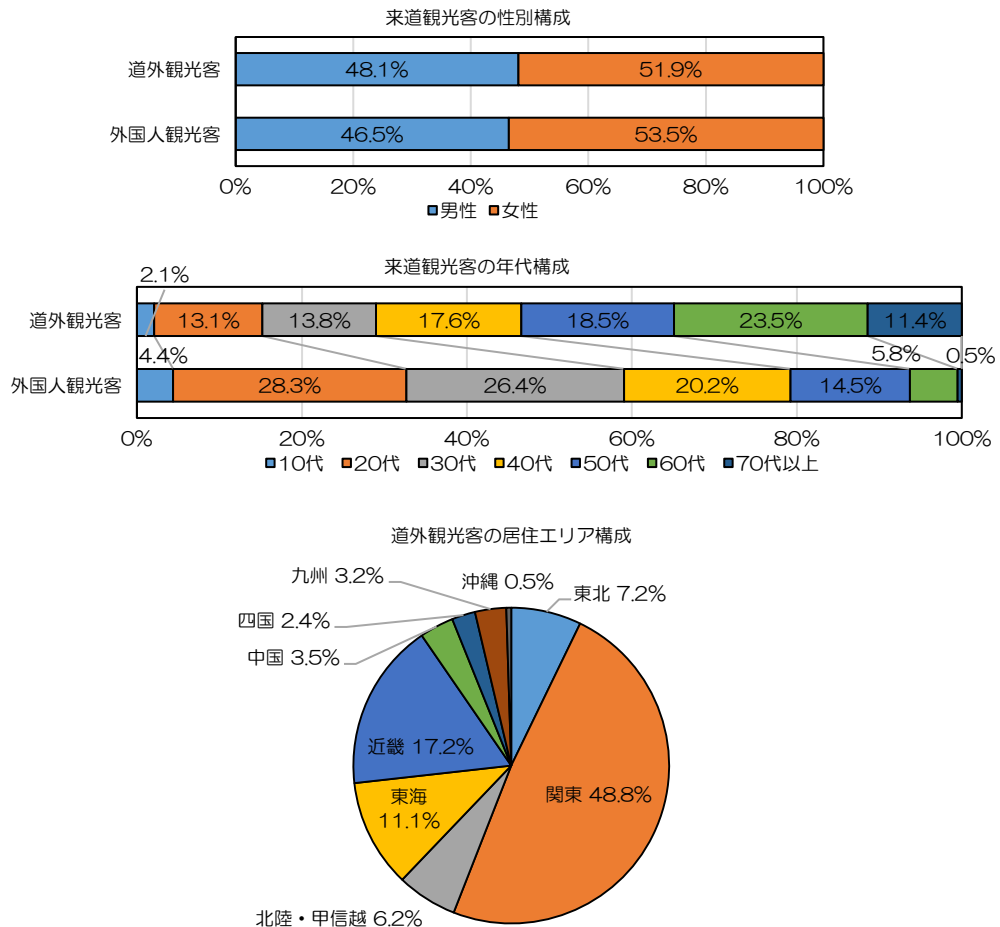
	1位	2位	3位	4位	5位
平成11年度	北海道	京都	沖縄	長野	長崎
平成13年度	北海道	京都	長野	沖縄	長崎
平成15年度	沖縄	北海道	京都	長野	長崎
平成16年度	沖縄	北海道	京都	長野	東京
平成18年度	沖縄	北海道	京都	長野	東京
平成20年度	沖縄	北海道	京都	東京	長野
平成22年度	沖縄	北海道	京都	東京	長野
平成24年度	沖縄	北海道	京都	長崎	千葉
平成25年度	沖縄	北海道	京都	東京	長崎
平成26年度	沖縄	北海道	京都	千葉	長崎
平成27年度	沖縄	北海道	京都	東京	千葉
平成28年度	沖縄	北海道	京都	千葉	東京

【公益財団法人日本修学旅行協会 教育旅行年報】

(2) 観光客の動態

■ 来道観光客の属性

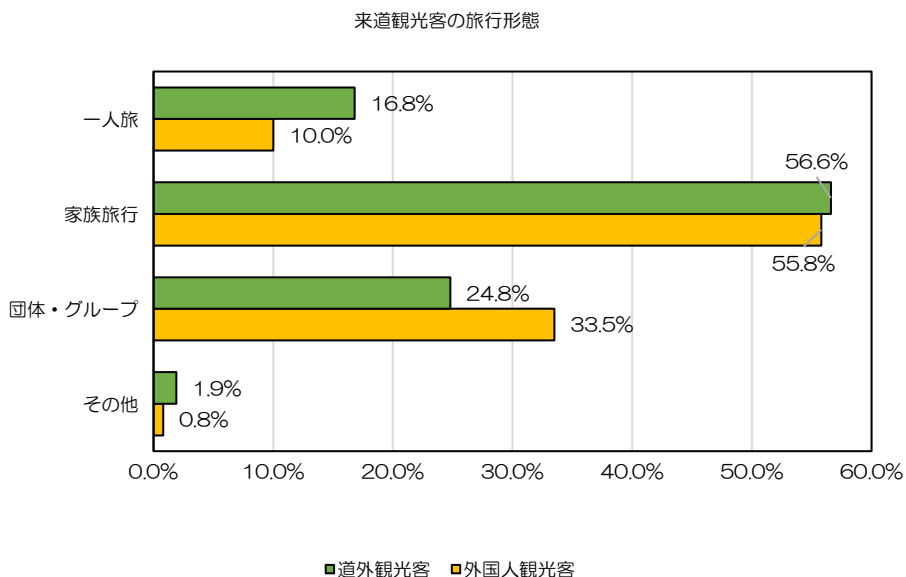
北海道を訪れる観光客の属性をみると、道外及び外国人観光客ともに性別では、男性より女性が多い。年齢別では、外国人観光客の方が比較的若い年代が多く、20代、30代、40代の順で多いのに対し、道外の観光客は、60代が最も多く、50代、40代の順となっている。道外から来る観光客の居住地では、関東が48.8%と群を抜いて多くなっている。



【平成28年度 観光客動態・満足度調査】

■ 家族旅行が大半

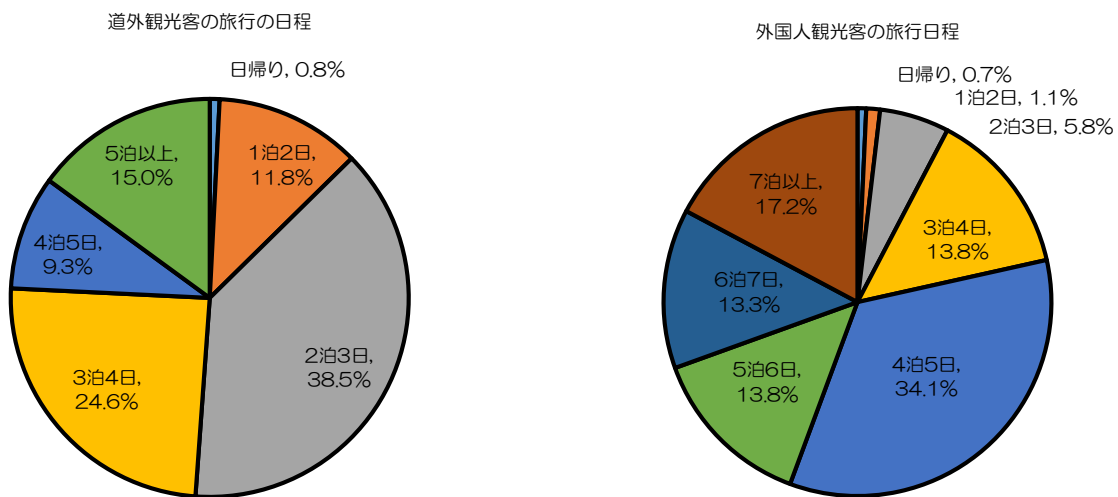
来道観光客の旅行形態をみると、家族旅行が大半を占めており、外国人観光客については、団体・グループも全体の3分の1を占めていることから、FIT化の流れの中でも、団体旅行の需要は一定程度あるものと思われる。



【平成28年度 観光客動態・満足度調査】

■ 外国人観光客は長期滞在者が多い

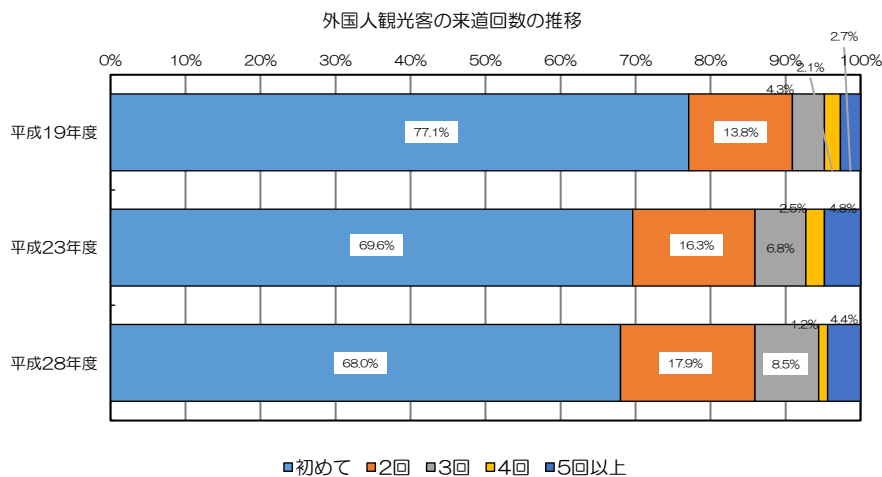
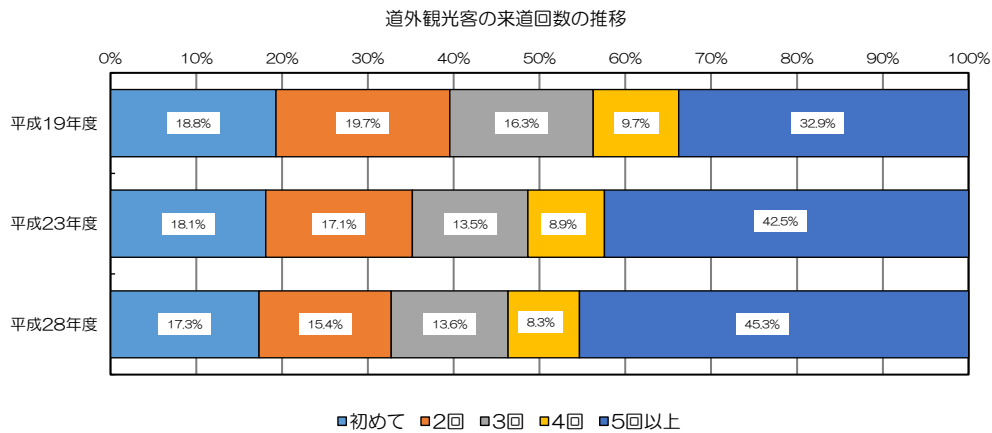
来道観光客の旅行日程をみると、道外の観光客で最も多い日程が2泊3日、次いで、3泊4日となっている。また、外国人観光客は、4泊5日が最も多く、次いで、7泊以上と長期滞在者が多い。



【平成28年度 観光客動態・満足度調査】

■ 道外観光客の8割がリピーター、外国人のリピーターも増加

道外の観光客のうち、80%以上が過去に北海道を訪れた経験があるリピーターで、5回以上の来道経験を持つ「北海道ファン」は45%を超えている。また、外国人観光客のリピーターも増加傾向にある。



【観光客動態・満足度調査】

■ 自然や花の人気の上昇

道外の観光客の目的では、「都市観光」、「自然鑑賞」、「特産品の買物・飲食」、「温泉・保養」が上位を占めているが、近年「花の名所めぐり」の人気の高まってきている。外国人観光客の目的では、自然に対する観光需要が高まっており、全体の約8割が行程の中で「自然鑑賞」をしているという結果になった。

《道外観光客の旅行目的の推移》

■平成28年度		■平成23年度(参考)		■平成19年度(参考)	
1 都市観光	53.9%	1 都市見物・観光名所めぐり		1 都市見物・観光地名所めぐり	
2 自然鑑賞	45.7%	2 自然鑑賞		2 自然鑑賞	
3 特産品の買物・飲食	35.4%	3 特産品の買物・飲食		3 温泉・保養	
4 温泉・保養	32.7%	4 温泉・保養		4 特産品の買物・飲食	
5 花の名所めぐり	14.4%	5 ショッピング		5 テーマパーク・遊園地	
6 動物園・水族館	14.3%	6 動物園・水族館		6 イベントへの参加・見学	
7 ショッピング	13.7%	7 ドライブ		7 花の名所めぐり	
8 ドライブ	13.4%	8 道の駅めぐり		8 ドライブ	
9 道の駅めぐり	9.7%	9 イベント参加・見学		9 スキー・スノーボード	
10 テーマパーク・遊園地	3.7%	10 花の名所めぐり		10 美術館など文化施設めぐり	

【観光客動態・満足度調査】

《外国人観光客の旅行目的の推移》

■平成 28 年度

1	自然鑑賞	79.4%
2	都市観光	62.3%
3	温泉・保養	53.4%
4	特産品の買物・飲食	49.4%
5	ショッピング	40.1%
6	花の名所めぐり	26.0%
7	動物園・水族館	13.9%
8	道の駅めぐり	7.1%
9	スキー・スノーボード	6.7%
10	産業遺産・工場見学などの産業観光	4.6%

■平成 23 年度（参考）

1	都市見物・観光名所めぐり
2	温泉・保養
3	自然鑑賞
4	ショッピング
5	特産品の買物・飲食
6	花の名所めぐり
7	動物園・水族館
8	スキー・スノーボード
8	イベント参加・見学
10	道の駅めぐり

■平成 19 年度（参考）

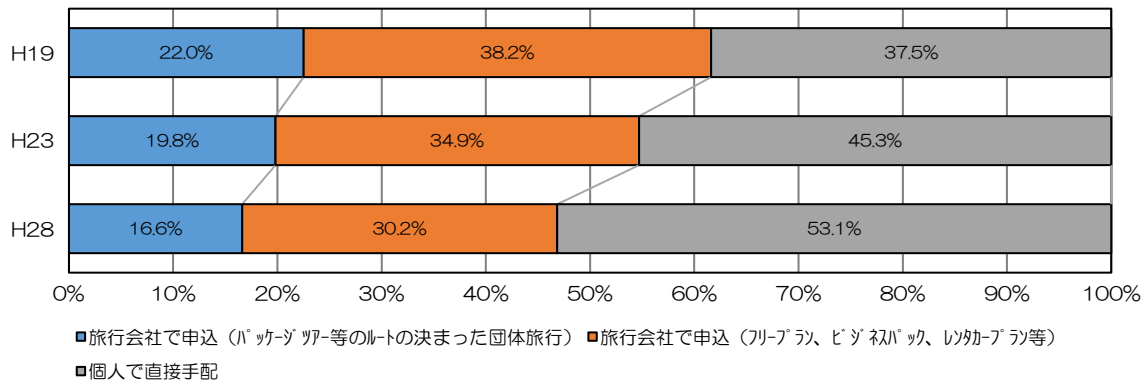
1	自然鑑賞
2	温泉・保養
3	買い物
4	都市見物・観光名所めぐり
5	名物の飲食
6	花の名所めぐり
7	冬のイベント（雪や氷）
8	スキー・スノーボード
10	テーマパーク・遊園地
10	夏のイベント

【観光客動態・満足度調査】

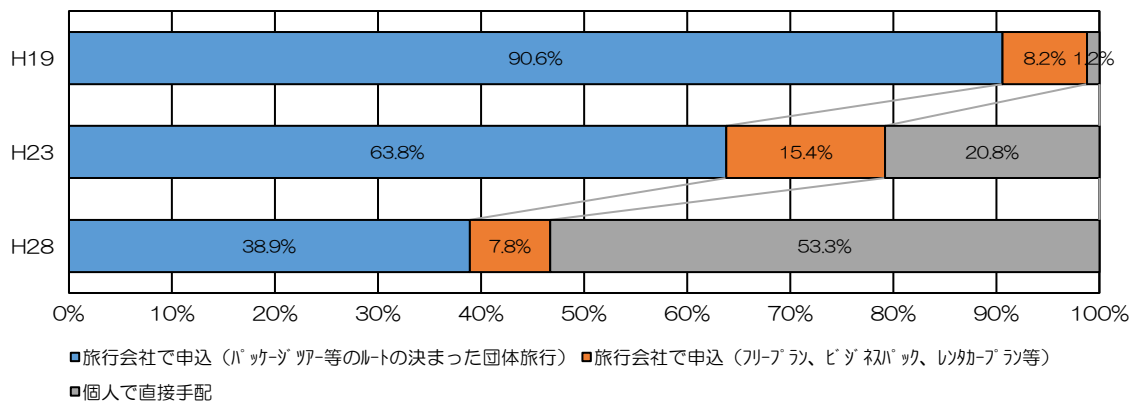
■ パッケージツアーの利用者は減少

パッケージツアーの利用状況をみると、道外の観光客、外国人観光客ともに「個人で直接手配」が増加傾向にあり、特に、外国人観光客のFIT化が顕著に見られる結果となった。

道外観光客のパッケージツアー利用状況の推移



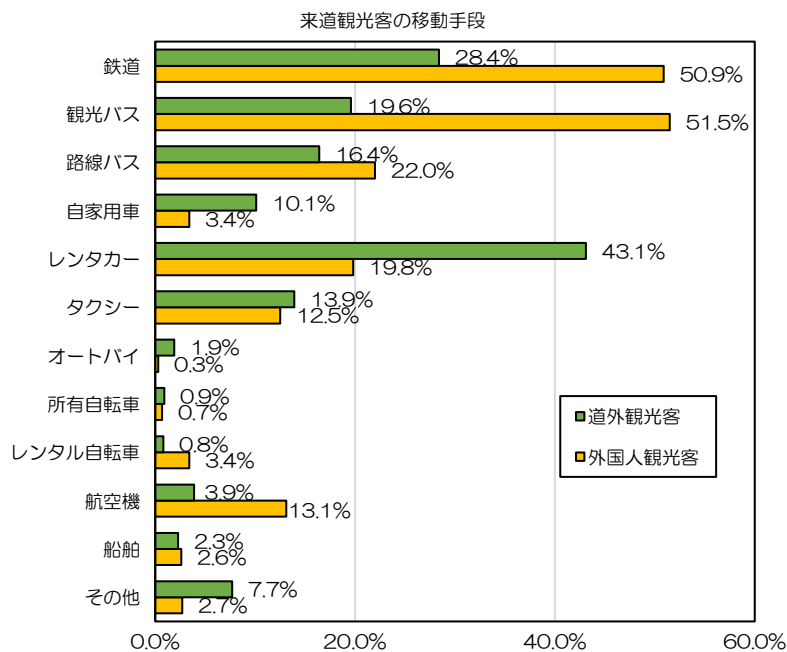
外国人観光客のパッケージツアー利用状況の推移



【観光客動態・満足度調査】

■ 異なる移動交通手段の特徴

北海道内における移動交通手段をみると、道外の観光客が最も利用しているのは、「レンタカー」であり、次いで「鉄道」、「観光バス」、「路線バス」となっている。一方で、外国人観光客が多く利用しているのは、「観光バス」や「鉄道」となっており、移動交通手段の特徴が異なる結果となった。

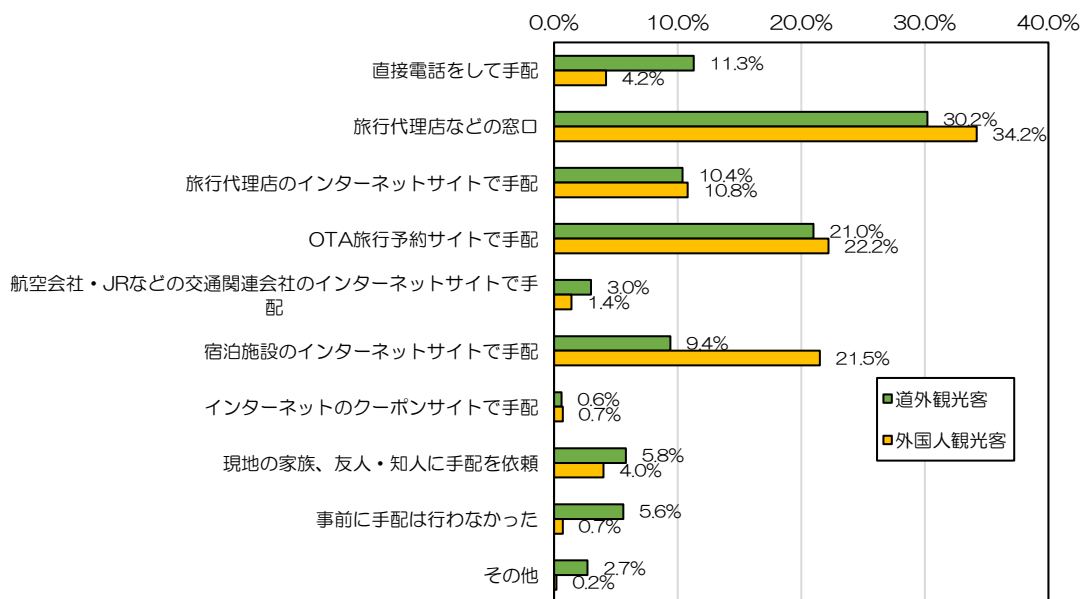


【平成 28 年度 観光客動態・満足度調査】

■ ネット化が進む一方で窓口手配も健在

宿泊先の手配方法をみると、「インターネット」を利用した割合が道外の観光客で44.4%、外国人観光客で56.6%と最も多い一方、「旅行代理店などの窓口」で手配した割合は、道外の観光客で30.2%、外国人観光客で34.2%という結果となった。

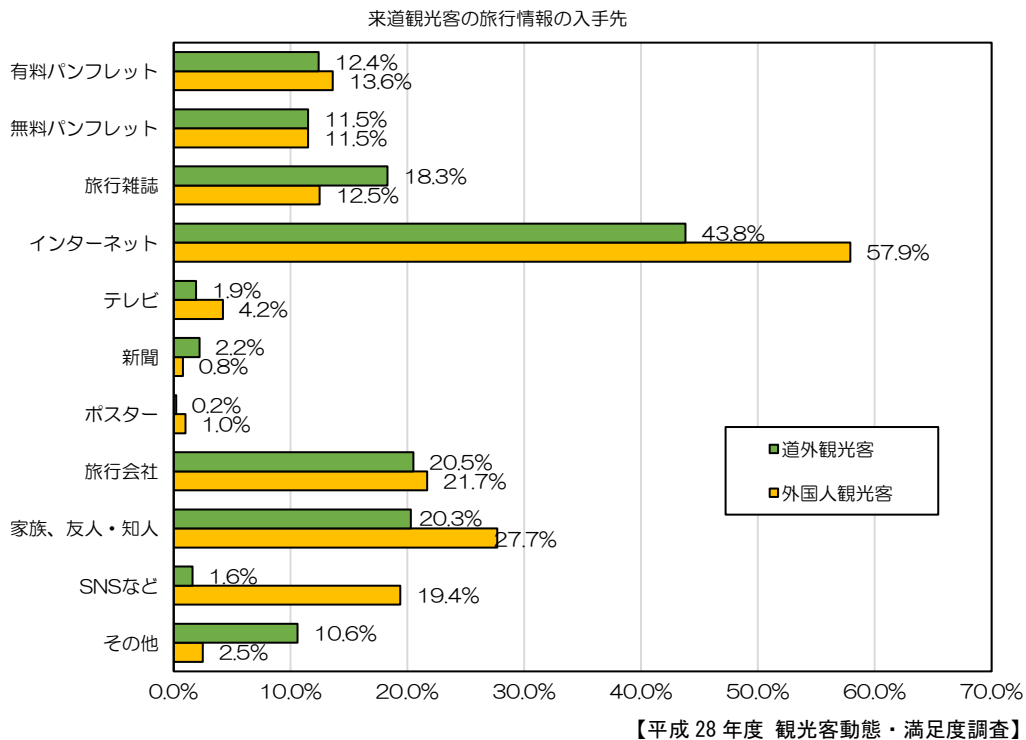
来道観光客の旅行の手配方法



【平成 28 年度 観光客動態・満足度調査】

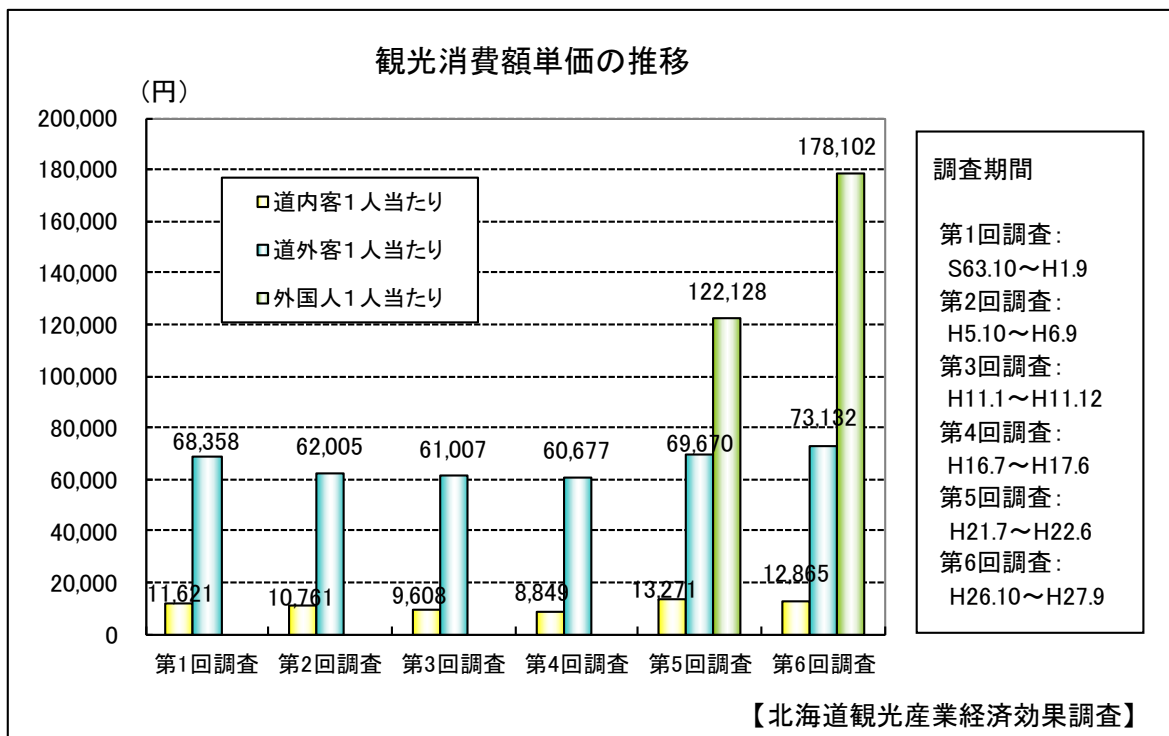
■ 旅行情報の入手先もインターネット

旅行情報の入手先をみると、道外の観光客、外国人観光客ともに「インターネット」が最も多い結果となった。



■ 観光消費額単価

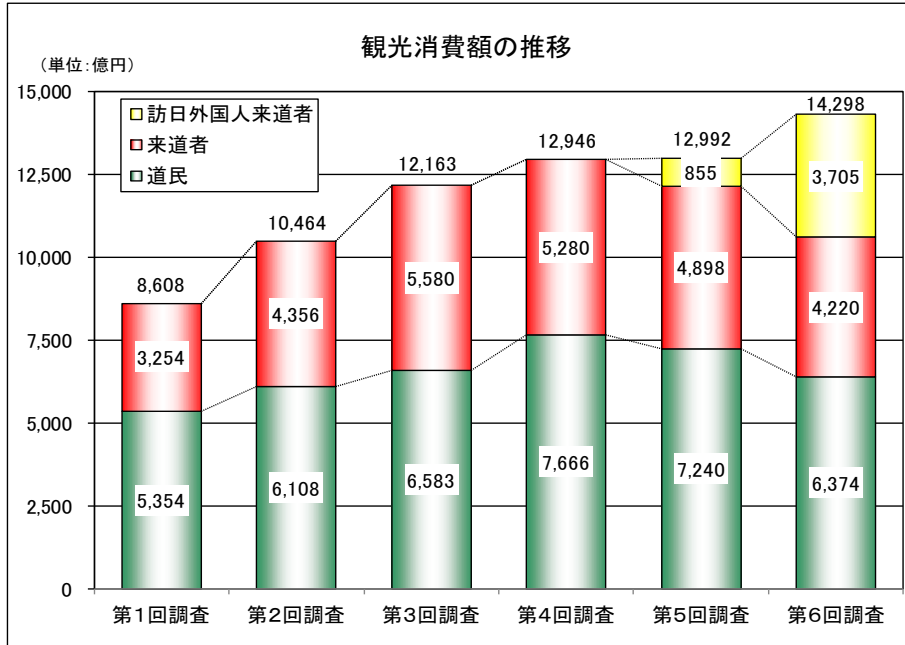
観光客が 1 回の観光行動で消費する金額をみると、道内客は 12,865 円、道外客は 73,132 円、訪日外国人来道者は 178,102 円となった。



(3) 観光産業の状況

■ 観光消費額は増加基調

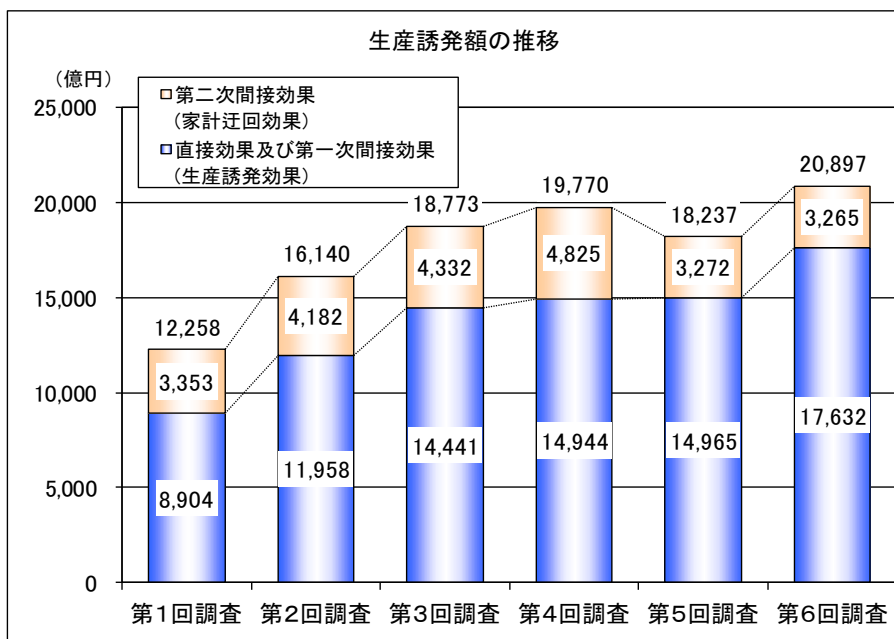
北海道の総観光消費額は1兆4,298億円で、第1回調査以来ほぼ増加基調にある。このうち道民による消費額は6,374億円、来道者による消費額は4,220億円、訪日外国人来道者による消費額は3,705億円となっている。



【北海道観光産業経済効果調査】

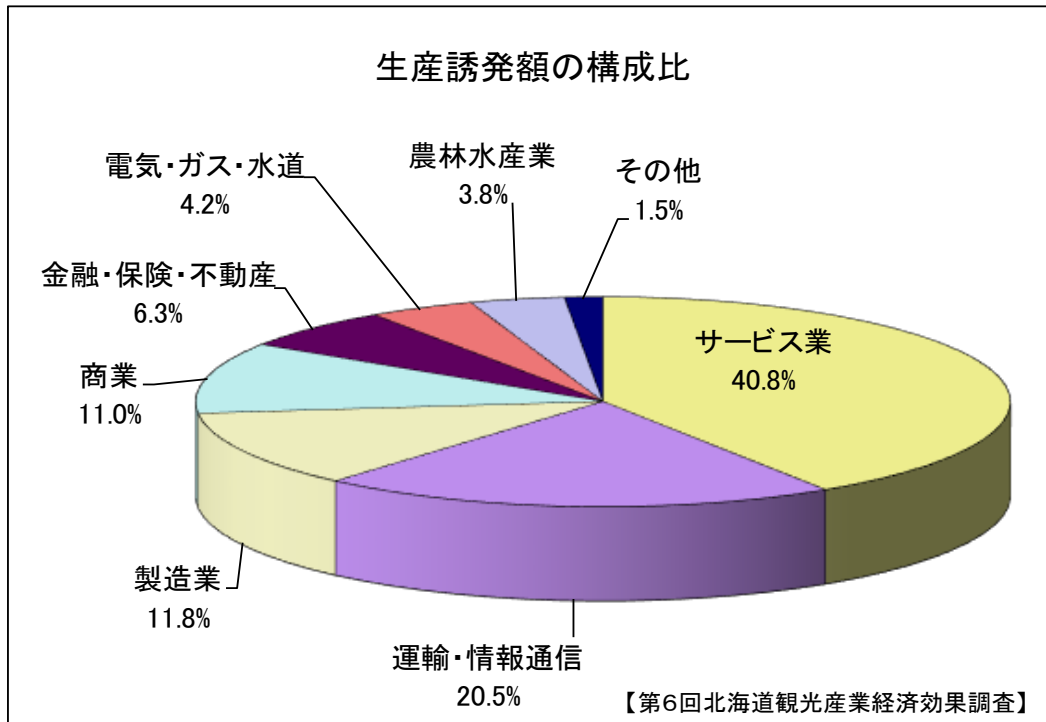
生産誘発額は2兆897億円で推計され、このうち観光消費によって道内での原材料やサービスの生産に波及する直接効果と第一次間接効果の和が1兆7,362億円、観光消費がもたらす雇用者の所得の増加が道内での新たな消費を生み出し、生産に波及する第二次間接効果が3,265億円で推計された。

観光消費がもたらす生産波及効果はサービス業、運輸・情報通信業、製造業をはじめとする様々な産業に波及している。



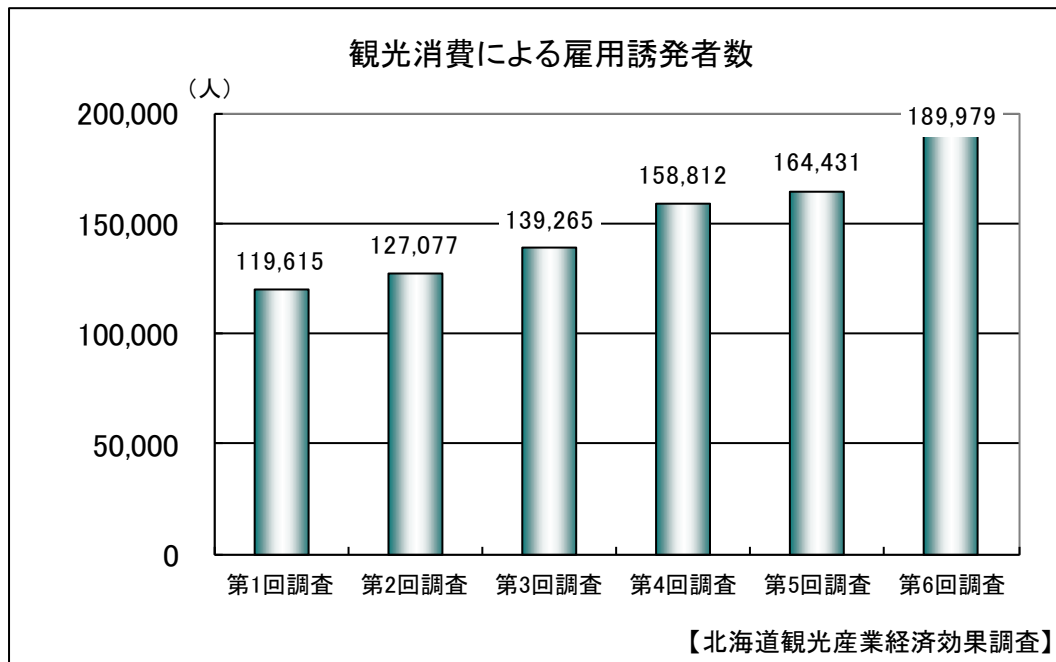
※第1回から第5回までの調査においては、直接効果と第一次間接効果の和を「生産誘発効果」とし、第二次間接効果を「家計迂回効果」としていた。

【北海道観光産業経済効果調査】



■ 雇用効果は19万人

観光消費による2兆897億円の生産誘発額は、189,979人の雇用効果を生み出すと推計された。これは平成26年度道民経済計算における道内就業者数235万4千人の8.1%に相当する。



■ 宿泊業の状況

平成30年3月末現在、北海道で旅館業法の許可を受けているホテル、旅館、簡易宿所は4,904施設で、平成24年度と比較すると、ホテルは施設数で2.6%、定員数で11.3%増加しているが、旅館はそれぞれ14.0%、14.1%減少している。全体では、施設数、定員数ともほぼ横ばいとなっている。

なお、平成30年6月15日から住宅宿泊事業法が施行され、住宅宿泊事業（民泊）の届出住宅の数は、平成30年9月14日時点で1,232件（札幌市所管分を含む。）となっている。

宿泊施設数と定員数の推移

（単位：軒、人）

区 分		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	H29/H24
ホ テ ル	施設数	684	681	689	679	695	702	102.6%
	定 員	122,861	124,559	126,121	128,024	134,645	136,708	111.3%
うち都市部	施設数	384	384	390	375	384	387	100.8%
	定 員	75,905	77,045	79,805	80,423	84,620	87,278	115.0%
旅 館	施設数	2,551	2,482	2,391	2,285	2,241	2,195	86.0%
	定 員	162,511	157,970	151,939	148,146	144,095	139,625	85.9%
うち都市部	施設数	520	519	502	453	441	424	81.5%
	定 員	41,249	41,213	39,924	38,684	36,660	35,852	86.9%
簡易宿所	施設数	1,603	1,645	1,720	1,770	1,894	2,007	125.2%
	定 員	32,094	32,857	34,180	34,636	37,028	39,233	122.2%
うち都市部	施設数	201	209	217	206	229	268	133.3%
	定 員	5,558	6,006	6,284	6,232	7,095	8,194	147.4%
合 計	施設数	4,838	4,808	4,800	4,734	4,830	4,904	101.4%
	定 員	317,466	315,386	312,240	310,806	315,768	315,566	99.4%
うち都市部	施設数	1,105	1,112	1,109	1,034	1,054	1,079	97.6%
	定 員	122,712	124,264	126,013	125,339	128,375	131,324	107.0%

※1 都市部：札幌市、小樽市、函館市、旭川市、網走市、帯広市、釧路市の7市

※2 各年度 3月末現在

【北海道保健福祉部健康安全局食品衛生課】

■ 旅行業者の状況

道内に主たる営業所がある旅行業者の登録数は、平成30年3月現在367となっており、旅行サービス手配業が平成30年1月から新設されたことを考慮しても、登録数は増加傾向となっている。

道内に主たる営業所のある旅行業者

登録区分	登録行政庁	業務の範囲	H27年度	H28年度	H29年度
第1種	観光庁長官	・海外・国内の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	21	22	23
第2種	北海道知事	・国内の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	113	115	118
第3種	北海道知事	・国内(区域限定)の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	135	148	152
地域限定	北海道知事	・国内(区域限定)の募集型企画旅行 ・国内(区域限定)の受注型企画旅行 ・国内(区域限定)の手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	8	7	8
代理業	北海道知事	・受託契約に基づく代理販売	33	33	30
旅行サービス手配業	北海道知事	・旅行業者のため、運送等サービスなどの媒介など	-	-	36
計			310	325	367

※ 各年度、3月末現在

【国土交通省北海道運輸局・北海道経済部観光局】

※ 旅行サービス手配業は、平成30年1月から施行。

■ 旅客輸送業の状況

平成28年度の旅客輸送人員を平成23年度と比較すると、道内においては、JR、鉄道・軌道、船舶及び航空が増加した一方、自動車は減少した。道内一道外間においては、北海道新幹線の開業などによりJRが大きく増加したほか、航空も増加し、船舶は横ばいとなった。

道内主要空港の航空機輸送実績については、東京・関西方面とも輸送人員は平成23年度まで減少傾向にあったが、平成24年度から増加傾向にある。

機関別輸送人員の推移（道内）

（千人）

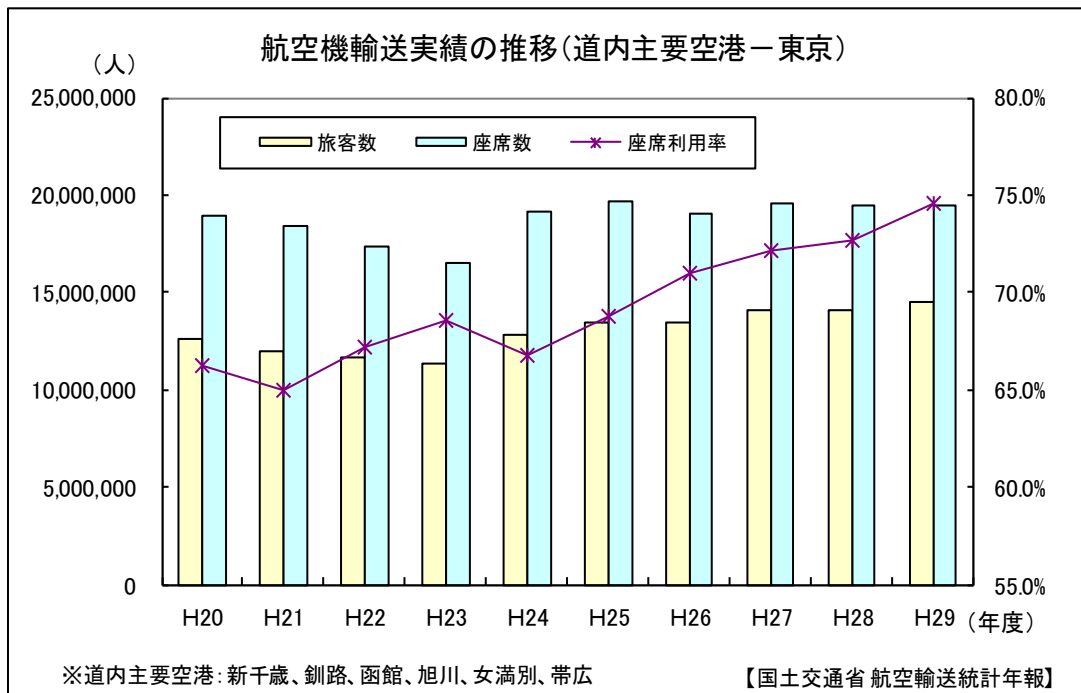
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	H28/H23
JR	127,600	129,668	132,640	130,168	133,001	133,330	104.5%
鉄道・軌道	214,629	219,897	224,614	227,760	231,794	239,246	111.5%
自動車	317,708	317,271	318,344	310,585	309,850	304,958	96.0%
船舶	1,422	1,515	1,551	1,483	1,603	1,669	117.4%
航空	621	591	666	674	674	728	117.2%
合計	661,980	668,942	677,815	670,670	676,922	679,931	102.7%

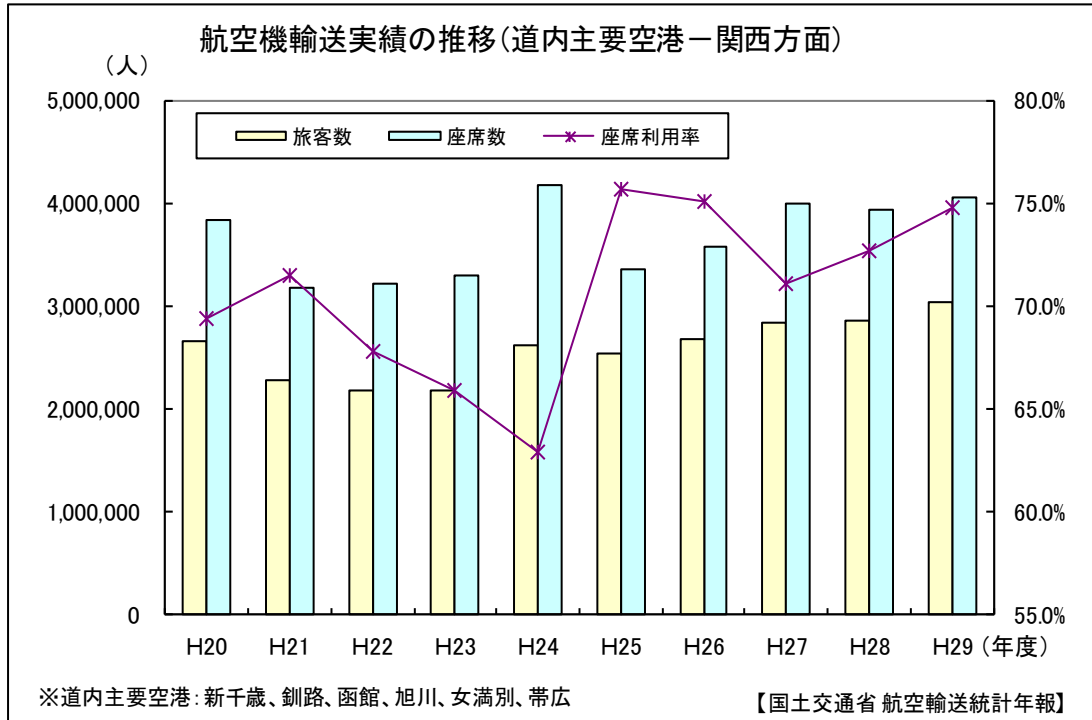
機関別輸送人員の推移（道内一道外）

（千人）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	H28/H23
JR	1,321	1,458	1,466	1,369	1,379	2,117	160.3%
船舶	1,723	1,729	1,730	1,663	1,725	1,734	100.6%
航空	17,350	19,112	20,173	20,377	21,132	21,210	122.2%
合計	20,394	22,299	23,369	23,409	24,236	25,061	122.9%

【数字でみる北海道の運輸（北海道運輸局）】





■ 貸切バスの状況

平成 28 年度の貸切バス(観光バス)の事業実績を平成 23 年度と比較すると、業者数は減少しているが、車両数、走行キロ、輸送人員とも増加している。

貸切バスの事業実績

(台・千和・千人)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	H28/H23
業者数	268	263	264	258	261	262	97.8%
車両数	2,767	2,757	2,888	3,003	3,133	3,288	118.8%
走行キロ	92,707	103,515	110,570	105,468	104,379	103,954	112.1%
輸送人員	14,950	16,169	18,036	17,443	16,505	16,058	107.4%

【数字でみる北海道の運輸(北海道運輸局)】

平成30年度 観光局の施策体系

(単位:千円)

現状・課題	くにづくり行動計画における施策の展開方向	事業名	【交付金】		
<現状> ○人口減少社会の到来 ○急増する外国人来道者 ○外国人来道者増加による観光消費の拡大 ○本道観光への高い期待度と下回る満足度 ○観光客の特定時期、地域への集中 ○観光分野の人手不足、高い離職率 <課題> ○観光客増加による交流人口の拡大 ○経済の活性化 ○質の高いサイゼの提供による満足度の向上 ○多言語対応や安全な受入体制の整備 ○観光の発信、地域連携による広域周遊観光の促進 ○観光分野における人材の確保	地域における推進体制づくりの促進 自然環境や食など北海道の豊かな地域資源を生かした観光地づくり 長期滞在在化や何度でも訪れたくなる観光地づくり 地域的な偏在の解消 道民の道内旅行の活性化 道外からの誘客強化 海外からの誘客促進 年間を通じた観光客の平準化 満足度の高い受入体制の整備 世界水準の受入体制の整備・充実	○ 日本版DMO形成促進事業費 ○ DMOの活動推進に向けたマーケティング強化事業費 ◎ 民族共生象徴空間誘客促進・地域連携事業費 ○ 広域観光推進事業費 ○ 地域観光活性化促進事業費 ○ 体験型観光持続性促進事業費 ○ アウトドア活動振興環境整備事業費 ○ 北海道スポーツツーリズム戦略的誘客促進事業費 ○ 広域観光周遊ルートビジネスマデル形成事業費 ○ インバウンド対応観光ルート創出事業費 ○ 体験型観光持続性促進事業費【再掲】 ○ 北海道教育旅行活性化事業費 ○ 国際観光新商品開発・販売促進事業費 ○ 観光商品づくり開発コンベン事業費 ○ きた北海道広域観光周遊ルート地域観光創出事業費 ○ ひがし北海道観光地周遊促進事業費 ○ 広域観光推進事業費【再掲】 ○ 地域観光活性化促進事業費【再掲】 ○ 北海道観光誘致推進事業費(国内分) ○ 交通事業者等との連携による交流人口拡大事業費 ○ 地域連携等による道外誘客促進事業費 ○ 地方都市連携誘客促進事業費 ○ 北海道ロケーション誘致推進費 ○ 首都圏マスコムメディア等を活用した情報発信強化事業費 ○ どさんこ旅サロンの運営・利用促進事業費 ○ 北海道観光誘致推進事業費(国際分) ○ 北海道観光成長市場開拓促進事業費 ○ 北海道観光成熟市場誘客促進事業費 ○ 北海道観光欧米市場誘客促進事業費 ○ 海外クロスメディアコンテンツ制作・配信事業費 ○ 北海道外国人観光客再訪促進事業費 ○ コンベンション誘致促進事業費 ○ 閑散期誘客拡大事業費 ○ 北海道教育旅行活性化事業費【再掲】 ○ 北海道MICE誘致促進事業費 ◎ 「稼ぐ観光」具体化調査実践モデル事業費 ○ 北海道ホスピタリティ推進事業費 ○ ハリアフリー観光推進事業費 ○ ムスリムフレンドリー推進事業費 ○ インバウンド受入体制整備事業費 ○ 新千歳空港国際観光案内所運営事業費 ○ 北海道さっぽろ「食と観光」情報館運営費 ○ 観光関連施設等投資促進事業費 ○ 観光統計調査事業費 ○ 観光産業人材確保支援事業費 ○ 実践的インバウンドおもてなし人材育成事業費 ○ 日本版DMO形成促進事業費【再掲】 ○ アウトドア活動振興環境整備事業費【再掲】	12,092 51,179 72,522 108,363 81,024 12,322 391 43,793 27,289 61,760 — 30,919 22,036 4,100 51,641 92,149 — — 109,934 136,343 130,701 19,644 274 53,111 12,720 34,557 75,987 72,753 70,942 18,227 36,353 10,578 14,000 — 20,941 19,242 5,000 6,849 7,092 11,528 26,764 37,440 8,802 2,933 14,468 30,876 —		
		<目標> ～観光産業を北海道のリーディング産業へ～ ■ 国際的に質や満足度の高い観光地づくり ■ 戦略的な誘客活動による旅行市場の拡大 ■ 観光振興による地域と経済の活性化 【主な目標指標】 ■ 観光入込客数 6,000万人 (うち、道内客 4,880万人、道外客 620万人、外国人 500万人) ■ 総観光消費額 2兆1,544億円 (うち、道内客 6,832億円、道外客 4,712億円 外国人 1兆円)	国際的に質や満足度の高い観光地づくり 戦略的な誘客活動による旅行市場の拡大 観光振興による地域と経済の活性化	海外からの誘客促進 年間を通じた観光客の平準化 満足度の高い受入体制の整備 世界水準の受入体制の整備・充実	14,000 — 20,941 19,242 5,000 6,849 7,092 11,528 26,764 37,440 8,802 2,933 14,468 30,876 —

観光予算計	2,129,889
【観光局事業 1,663,247(うち機構負担金1,571,985) 他部署事業 466,642】	

◎＝新規、○＝継続、【交付金】＝地方創生推進交付金